

Join!

長門湯本観光まちづくり

みんなの力で湯ノバージョン

成長戦略推進課 Tel. 23-1234
長門湯本みらいプロジェクトHP
<http://yumoto-mirai.jp/>

懐かしの湯本フォト



写真提供：湯本まちかど資料館館長 吉富尊一

長門湯本温泉の景観づくり

景観デザインガイドライン

長門湯本温泉観光まちづくり計画では「全国温泉地ランキングトップ10」入りを目指しており、魅力的な温泉街となるため、計画に掲げる整備事業を進めるとともに、景観づくりに本格的に取り組み、長門湯本全体の魅力を高めていく必要があります。

良好な景観は行政のみで達成できるものではなく、関係する住民や事業者、市、県がそれぞれの役割を果たし、統一感のあるデザインで街並みを形成することが重要です。このため、湯本まちづくり協議会の皆さんと意見交換を重ね、景観デザイン

ガイドラインとして具体的なルールを検討しているほか、検討状況を「かわら版」に掲載して配布するなど、地域の皆さんと共有することで地域の街並みを大切に守り育てていく関係づくりに取り組んでいます。

これまで意見交換により、見えてきた魅力のひとつが音信川への眺望。長門湯本の建物や景観は、川沿いの建物が川に対して窓を設けるなど開放的な設えとなっており、その特徴が湯本らしい温泉街の風情を生み出しています。

こうした「湯本らしさ」を活かした景観デザインガイドライ

ンにより、安心して歩いて楽しめる温泉街の実現や川への眺望と川沿いの温泉街の風情を大切にすること、また、もてなしの演出や夜間景観によるさらなる魅力を加えることを目指しており、9月から10月にかけて実施した社会実験においても景観づくりの効果や課題を検証しました。

景観デザインガイドラインは、住民向けワークショップと設計者・施工者向けワークショップを今年度それぞれ5回開催することとしており、地域の住まい手と作り手の合意形成を図りながら現在、進められています。



▲住民らとともに「長門湯本らしい景観」を考える

まちづくりのキーパーソン



《略歴》

1976年生まれ。東京都在住。株式会社アルセッド建築研究所所属。趣味はまちあるき。

長門湯本らしい街並みを地域とともに。

益尾 孝祐 さん (長門湯本観光まちづくりデザイン会議建築担当技術者)

景観デザインガイドラインの策定などを担当する益尾さん。これまで、全国各地で失われつつある地域の街並みを維持・再生する取組や被災した地域で被災者自らが地域に相応しい住まいを再建できるよう支援する取組に関わってこられました。

「湯本は温泉街を流れる音信川に対して、川沿いの建物が開放的な設えになっていることが大きな魅力です。また、三ノ瀬や門前、周辺集落の風景も美しく保たれていることも素晴らしい」と長門湯本の特徴を挙げる益尾さん。地域住民や設計者・

施工者とともにワークショップを重ね、長門湯本らしい景観について意見交換しており、「地域の方々が地域の魅力を再認識し、誇りに思うことで、その気持ちから街並みに現れてくるのでは」とワークショップの手応えを話します。

住まい手と作り手が連携して地域の街並みを大切に守り育てる関係を再生することを目標に「長門湯本の再生の取組が全国の温泉街の賑わいづくりと景観づくりのモデルとなるよう」とも頑張っていきたい」と意気込みを語ってくれました。